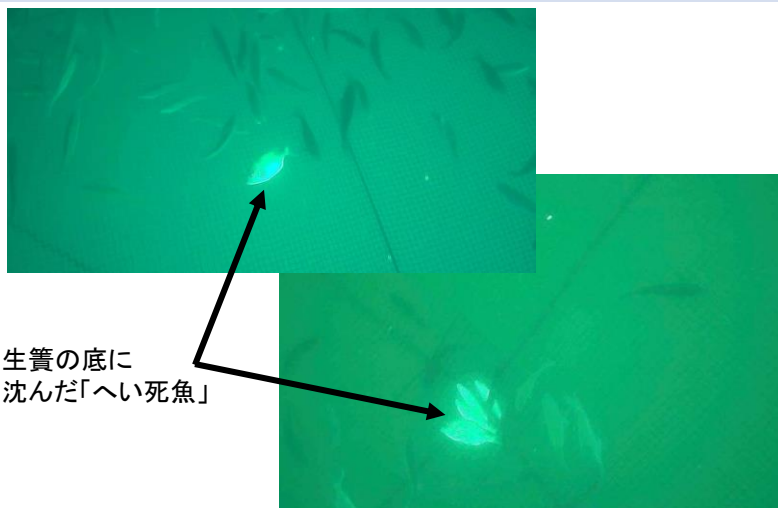
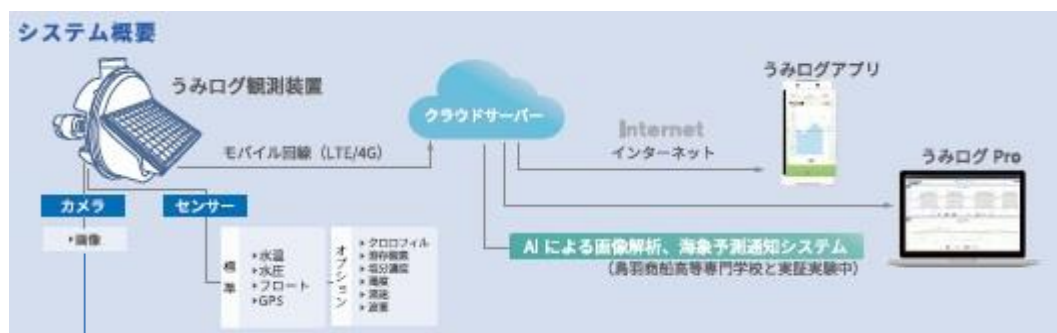


# へい死した養殖魚の早期発見システムの開発

## 生簀の底に沈んだへい死魚を陸上で確認

魚類養殖では、病気の蔓延を防ぐためにも早期に病魚やへい死魚を見つけ生簀から取り除くことが重要です。現状では、へい死した魚がすぐ海面に浮上する場合は目視で確認できましたが、生簀の底に沈んだ状態では海面上から見つけられないことから、早期に発見する手法の開発が望まれていました。

このことから、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校及び株式会社アイエスイの協力を得て、IoT海洋モニタリングシステムに水中カメラを新たに設置することにより、養殖魚の遊泳状態と、生簀の底に沈んだへい死魚を確認することが可能となりました。



生簀の底に沈んだ「へい死魚」

IoT海洋モニタリングシステムでは、水中画像の取得のほか、水温、水圧、フロート、GPS、クロロフィル、塩分、濁度、流速、波高のセンサーを取り付けることが可能



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒519-3602 尾鷲市大字天満浦字古里215-2 TEL (0597)22-1438 FAX(0597)22-1439